

真木



コロナに負けない俳句活動

会長 能村 研三

第 194 号

〒260-0852
千葉市中央区青葉町
1274-14
加藤峰子方
千葉県俳句作家協会
事務局
TEL 043-225-7115

〒299-1143
君津市君津台 2-8-4
石井紀美子方
「真木」編集部
TEL 0439-52-6254

目 次

コロナに負けない俳句活動 会長 能村研三	1
平成二年度文音俳句会	2
第34回協会賞受賞者のことば	4
千葉県俳壇ニュース、結社賞、会員著書紹介	5
ひろば	6
小野正之さんを悼む、第62回千葉県俳句大会作品募集	7
第6回千葉県俳句大賞、第35回協会賞の作品募集	8
新入会員一句、受贈誌より	8
基金御礼、佐原市内秋季吟行会について	10
千葉県俳句作家協会運営基金のお願い、事務局日誌	10

新型コロナウイルスというかつて経験したことのない恐怖に、私たちの日常は一変しました。四月には「緊急事態宣言」が発令され外出自粛等で日常生活に多大な影響を受けました。現在宣言は解除されたものの、感染の恐れが消えたわけではなく私たちの行動も慎重にならざるを得ない状況です。日常生活に多大な影響を受けている会員の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

千葉県俳句作家協会の行事も昨年の秋の千葉県に襲来した台風により、俳句大会を中止して以来、二月に行われた新年交流会は辛うじて開催出来たものの、五月に開催を予定した「令和二年度の通常総会及び新緑交流会」はコロナウイルスの感染予防が心配されることから中止を余儀なくされました。これに伴い「第三十四回協会賞」の贈賞式も延期となりました。受賞者及び関係者の皆さんにもご心配、ご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。今後予想される第二波、第三波を考えますと今後の行事計画の確定ができません。心づよい思いであります。

私たちが志向する俳句の世界は昔から「座」の文学とも言われているように、人の和をもって始まり、和をもって終わるとされています。お互いに膝を交えることで、お互いの詩情を誘発して句が生まれるのであります。

俳句の本来の魅力は、「座」を深めることになりまますから、コロナ対策で言われる「三密」とは自ずと矛盾するものであります。やはり私たちの健康が第一であり、コロナが終息するまでは我慢をしなければなりません。

千葉県俳句作家協会でも大会の句会に変わるものとして「文音句会」を行う多くの方の参加をいただきました。このようにファックスやインターネットによるネット句会なども人と人が接触せずに句会ができることから、句会での勉強になることと思います。

コロナウイルスの感染を防ぐには、もうしばらくの辛抱が必要であるようですが、こんな時こそ俳句を志向する人たちは、ポジティブな気持ちで向き合っていかなければならないと思います。

平成二年度 文音俳句会

【文音俳句会について】

まずは、「文音」の読み方から。「ぶんいん」と読みます。江戸時代から離れた人と手紙の遣り取りで俳句・連句をやることがありました。(角川書店の『俳文学大辞典』これを「ぶんいん」と読み、現在ではファックスやパソコンで行われていますが、千葉県俳句作家協会では、誰でも参加できる、郵送方式で行うことにしました。

令和二年の三月頃から、コロナ騒動でほとんどの俳句会が中止となりました。俳句は句会がないと詠まない人も多いと思いますので、それを防止するためにと考えました。

俳句の「選句」の集計は大変だと考える人は多いと思いますが、今はパソコンに任せてしまえば簡単です。皆さんの選句番号を到着順にパソコンに入れ、終わるとパソコンに命令を入れれば、番号順に何票入ったか、瞬時に計算してくれます。それを個人別に二句の合計点を集計し、同時に特選句も何句入ったかも入力します。その後一位は何点、二位は何点と調べてくれます。同点の場合は、三位八点、四位八点とある場合はその句を調べ、一句高点、特選が何句あるかを調べ、同じ場合は到着順としました。最後に番号と俳句と作者を確認して、一覧表にしました。

今回は八十八名の応募があり、役員特選八名、入選は二十名でした。入選外の人も応募者は全員一句掲載しました。(松本よし彦記)

文音俳句会作品集

特選句

能村研三会長特選

筆勢のかするるも気魄雲の峰

三枝かずを副会長特選

暮れ方の空まだ青し月見草

増成栗人副会長特選

若葉して大きな風の木となりぬ

塩野谷仁副会長

麦秋や書架に不動の大有科

秋尾敏理事長特選

守宮鳴く時計に電波とどきけり

川合憲子副理事長

竹伐りて大きく青い風倒す

加藤峰子事務局長

豆飯の三密となり炊きあがる

三枝青雲顧問特選

四肢六腑軋みて花野遠くなり

入賞者と代表作品

(二句合計得点 ○数字は順位、一句のみ掲載)

① 若葉して大きな風の木となりぬ

② 竹伐りて大きく青い風倒す

③ 麦秋や書架に不動の大有科

④ 海風の匂ふ水路や行々々

⑤ 麦の秋ゆつたり牛のひかれゆく

⑥ のりしろのやうな一日春の雨

⑦ 恐ろしきものはしずかに蟻地獄

⑧ 鉢底を突き出る根つこ罫れり

⑨ 菖蒲湯やしかと受取る蒙古斑

⑩ 水巡るたれも跣足のうれしさに

⑪ 光の輪水に生れて夏来たる

⑫ くつ箱の名前が変り初つばめ

⑬ 梨咲いて雨の摘花となりけり

⑭ 少年に隠処いくつ青風

⑮ 川越して変はるしきたり若葉冷

⑯ 鳥帰る列島丸ごと密閉し

⑰ 手間ひまをいとはぬ暮し蔭を煮る

⑱ 水色に仕上ぐるマスク立夏かな

14点 川俣婦美子

13点 田所 節子

13点 金光 浩彰

12点 馬淵 津枝

12点 中村 世都

11点 富川 明子

11点 飯田 晴

10点 三枝かずを

10点 原 瞳子

10点 佐々木リサ

9点 能村 研三

9点 椎名 鳳人

9点 石橋みちこ

8点 中川 素子

28点 川合 憲子

15点 高橋富久江

14点 村上喜代子

① 山桜山に溶け込むとき揺るる

8点 染谷 卓

② 桜葉ふる野ざらしのをとこ神

8点 須田眞理子

入賞者以外の俳句(一句のみ掲載)

春の野にフアール目の目で歩きけり

酒井團づみ

待つという黙の支えや夜の新樹

石井紀美子

窓よぎる鳴数えることが夏

塩野谷 仁

ずぶずぶの砂山茅花流しかな

中村 瞳

花ふぶき遊び心の肩に舞ふ

加藤 峰子

見舞酒底に小さく蝮の字

奥村 利夫

相輪に目礼をして鳥雲に

服部 直道

初蝶や目でも会話の手話二人

金子まもる

ぼうたんやこんな笑顔に戻りたい

鶴岡十詩生

キヤタピラの日ごとに重き春の泥

坂本 正夫

夏休み自粛に鬱の募りけり

三枝 青雲

五月病ジグソーパズルが埋まらない

倉岡 けい

春風やのらりくらりと尋ね人

村田 満枝

さらばとは漢の言葉四月尽

金子 敏

登四郎も白潮もなし花の沖

増成 栗人

犀星のまんまる眼鏡杏咲く

栗坪 和子

ウイルスを叩き潰さむ夏怒濤

伊藤 隆

靴買うや初夏の銀座を歩きたく

齊藤 哲子

たんぼば絮に小人の会議始るか

多胡たかし

喪失の詩集のごとくバラ一輪

清水 伶

とうすみの細葉の蔭の自肅かな

鎌田 光恵

門柱とペランダつなぐ鯉職

松本よし彦

又一つ消ゆる予定や草の餅

松尾 涼

山毛榉若葉トテムポール口より火

佐藤 映二

みどり児のうぶ毛金色風光る

茶谷 静子

陋屋に人の世を避け荷風の忌

北川 昭久

屯して祭りの後のコップ酒

羽矢 眞人

水中花器の内の世界感

香川 綾

人を攻め春を奪ひしコロナの禍

藤井 元基

夏蒲団寝相と共に形変え

叶矢龍一郎

たかんなの覚悟の上の曲がりかな

高橋 健文

新しき風を吹かせよぼうたんよ

稗田 寿明

鳩の巢に卵が二つ更衣

森 裕司

青簾レトロな町の時計台

大久保文夫

緊張の一と日終りて余花の雨

森 孝子

少年に雄心つばめ飛び交へり

柴田 歌子

耕して今日の土塊鍛洗ふ

古居 芳恵

野火走る野心わずかに消え残る

黒澤 雅代

両の手に抱えきれない青山河

細根 菜

干拓地八万石の蛙かな

藤田 考成

人呼べば声すきとほる立夏かな

秋本 紀子

すかんぼの酸っぱさ苦さ喜寿迎ふ

平山 武彦

蒸蛤ばくりばくりと多弁なり

上田 玲子

メロン提げ迷うてゐたり地下出口

楠原 幹子

人間の弱り始めやサングラス

越野 雄治

春暇少し風ある墓参かな

宇根 幸子

切株はテール代りひこばゆる

岩瀬由美子

更衣女子アナ髪を短くし

藤野 武彦

川風を四角に包む水羊羹

平岡 育也

若葉風産みたて卵販売機

時田 孝子

樽御輿たかぶり暇踏み外す

石川 笙児

夜の新樹髓にいのちの通ふ音

藤岡 貞夫

花密柑こんな夕暮に癒されて

鈴木真沙枝

衣擦れの音に猫寄る暮の春

山崎 政江

海遠くなりし生垣花とべら

中臺美恵子

薫風に緊急事態といふ不粹
浴衣着て自己紹介の動画撮る
自粛して自縮となりし五月闇
鐘樓の庇四尺夕つばめ
風涼しコロナの風よどこを這う
雲となる水木若葉を積み重ね
芒種かな水購ふてゐる空の下
細々と母の日の母であること

(松本よし彦記)

須藤 義紀
前北かおる
神田たかし
小林 良作
高山喜佐子
秋尾 敏
望月 百代
荒木 洋子

『合同句集第十集』 10月完成!

会員の皆様にご協力いただきました『合同句集第十集』は、10月の刊行にむけて準備が進んでいます。

参加者162名の作品と資料を収載。千葉県俳句大会までに、参加者へ個別配送を予定しています。

参加者以外で購入をご希望の方は、是非下記へお申し出ください。

・ 1 冊 4,000 円 (2冊以上ご希望の方は、2冊目からは2,000円のご負担となります。)

・ 申込先 千葉県俳句作家協会合同句集刊行委員会
稗田 寿明 (電話 090-7208-2802)

第34回協会賞

受賞者のことば

協会賞 梅津紀子

村上喜代子主催から受賞の知らせを頂いたのは二月中頃のこと。メールの文面がにわか信じられず、もう一度読み返した。思いもよらない朗報。この一年の幸先よいスタート…のはずだった。

ところが世の中には、これまた信じられない事態がおこりつつあった。三月四月五月、コロナ禍により外出も人と会うこともままならなくなっていく。心が塞ぐような現実、しばらく俳句からも遠ざかる日々が続いた。

それでも花々がほころび、新緑があふれ、この季節は晴れ晴れとした感覚を呼び覚ましてくれる。遠出は叶わないが、幸い、近くには海も公園緑地もある。自粛生活の中で、散歩がささやかな楽しみになった。ときおり、木漏れ日のように、言葉の切れはしが頭の隅に浮かんで消え、少しずつ俳句モードに戻ってくる。五七五の体をなさなくとも、句材を見つめるだけで十分。先行きの見え

ない不安な世の中であって、身近な自然も俳句も日々の生活を潤してくれる。

今年は、良くも悪くも忘れられない年になりそう。たとえば十年後二十年後、誰かと「当時はコロナで大変だった」と振り返ることがあったとき、私はひっそりと、もう一つの個人的で幸運なできごとを同時に思い出すのかもしれない。そして年老いて細々と俳句を続けている自分を想像してみる。

カルチャー講座を経て「いには」に入会し、村上主宰のご指導を頂き、まもなく十年になる。当初は「お試し」程度のつもりが、いつの間にか、一生の趣味と思えるようになった。今回の受賞を一つの節目として、新たな気持ちで俳句と向き合っていきたいと思う。

このたび、身に余る賞を頂きましたこと審査員の先生方に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

協会賞次席 坂本茉莉

このたびは千葉県俳句作家協会賞次席に選んでいただき、誠にありがとうございます。会報「真木」一九三号に掲載された選考過程を読み、評価されたポイントや自身の今後の課題を知ることが

でき、すべての審査員の方々に感謝しております。

思えば、長年住んでいたタイから二年前に帰国し、日本の季語の現場に身を置くことのできる幸せを日々感じていました。しかし、それまではタイの風物や気候という、俳句であまり詠われていない題材に寄りかかりがちであったと気がつくようになりました。日本で日本のことを俳句にする。当たり前のことなのですが、私にはどこか違和感をとめない、季語をどこまで理解して使っているのか、非常に心もとなない気持ちでした。

ありがたいことに、「いには」の村上主宰をはじめ、先輩諸氏・句友の皆様との句会の場でいろいろな指摘を受け、時には意見の違いや反論もあり、その中で多くのことを学ばせていただきました。

そして、もっとおおらかに季語の世界を楽しみ、羽ばたいてみようという思いが強くなり、今回の作品二十句が生まれた次第です。審査員よりご指摘のあった「やや作りすぎ」という評は、今の自分の未熟さの表れであり、ややもすると前のめりになって言葉に無理をさせている感があります。

現在のコロナ感染状況下で、私たちの生活や行動は大きく変わり、また変化を求められています。その中でも季節は巡り、季語の世界は豊かに時を刻んでいます。これ以上自然環境を破壊することなく、この世に生かされている恩恵を感じ、謙虚に俳句の言葉を紡いでいきたいと思えます。

千葉県俳壇ニュース

千葉県現代俳句協会

創立四十周年記念俳句大会

三月十五日に、千葉市文化センターにおいて開催を予定していた千葉県現代俳句協会（会長並木邑人）の令和二年度定期総会・創立四十周年記念俳句大会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、残念ながら中止になった。事前応募の作品は、一四〇〇句集まり入賞者が決定した。

〈入賞者作品〉

- ・千葉県知事賞
子の部屋に子の居る不安西日差す 加藤 法子
- ・千葉県現代俳句協会賞
泥葱を皮むけば無罪なり 田畑ヒロ子
- ・千葉市長賞
マスクして眼から不埒になって来る 戸邊 光一
- ・千葉県教育長賞
鳥渡る安房に上総に屋根が無い 吉野 精
- ・毎日新聞社賞
ぶどう一房父の死は一度きり 清水 伶
- ・千葉日報社賞
狐火の一つくらいは飼っている 浪岡はるか
- ・朝日新聞社千葉総局賞
過不足のなくて野菊のままにいる 黒澤 雅代

〔現代俳句千葉〕一三七号より

俳人協会千葉県支部

令和二年度 俳句大会

四月二十九日に開催予定であった俳人協会千葉県支部の令和二年度総会・俳句大会は、新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。

俳句大会の事前投句には、三四五名から九九二句の応募があり、講演予定の「松の花」主宰松尾隆信先生をはじめ、支部役員三十九名の選により入賞が決定した。

入賞者一覧

- 第一位・俳人協会千葉県支部長賞（8点・特2）
口といふ命のかたち燕の子 猪瀬 達朗
- 第二位・若潮賞（7点・特1）
卓袱台は母の文机小鳥来る 児島 千枝
- 第三位・菜の花賞（7点）
陽炎が持ち上げてゐる力石 大関 靖博
- 優秀賞（6点）
しばらくは寝かせて置きぬ帰省の子 藤城 良子
触手ゆれあうていそぎんちやく孤独 大野 崇文
巻寿司の花の切り口春隣 深川 峰子
- 秀逸賞（5点）
昼寝子や鬼は絵本に戻りをり 大関 博美
蛸壺に鈴虫鳴かせ浦住ひ 児島 千枝
この世の子あの世の子へと雛飾る 浪岡 玄
しみ多き亡妻のレシビや大根炊く 前川加代子

（高橋 健文記）

結社賞

第一回遊牧賞

- 遊牧賞 伊藤道郎・浪岡はるか
行く夏へ糸電話一個吊しおく 道郎
まとうなら蜘蛛の囀のあの糸のみ はるか

第47回響焰賞（令和二年）

- 響焰賞 戸田富美子 富美子
十日目の干し柿子規の貌をして
佳作一席 大森麗子 麗子
芒野の一本道を帰路という
佳作二席 北島洋子 洋子
葉牡丹の渦のようなる頭痛かな
佳作三席 小川トシ子・中野充子 トシ子
極上の光の朝を寒牡丹 充子
一葉落つ訣れのことば置くように
（響焰）五月号より

会員著書紹介

●『続シマフクロウによるしく』山崎 聰 著
著者は俳誌「響焰」の名誉主宰。昭和三十二年和知喜八に師事。栃木県生まれ、八千代市在住。本誌は平成二十三年刊行の『シマフクロウによるしく』の続篇。「響焰」誌の平成二十三年七月号から令和元年十二月号まで、編集後記として書かれた小文百篇を収載の寸言集。何れの頁も心に浸透してくる名言集で傍に置きたい一書である。
現代俳句協会顧問。句集『飛白』『忘形』『荒星』『遠望』『流沙』他。著書『季語のある風景』他。
（令和2年4月発行・紅書房）

●『千葉県現代俳句集成二〇二〇』

千葉県現代俳句協会合同句集刊行委員会編

本誌は、千葉県現代俳句協会（会長並木邑人氏）の四冊目の合同句集で、創立四十周年記念事業の一環として刊行された。参加者一四五名。当俳句作家協会会員の作品を紹介する。

吹つ飛ばせ鏝も猫背も芋風 相原 一枝
 忘れないための消しゴム原爆忌 秋尾 敏
 蟻の列その行き先がふつと無い 東 國人
 花びらの上で明日を考える 荒木 洋子
 肉体が宿る流木寒夕焼け 石井紀美子
 葉桜の下を女豹の駆けて来し 井上けい子
 共鳴りの滅ぶことなき寒北斗 小野 功

ひるば

県内吟行地紹介

南房総市・和田町界隈

和田町は平成十八年房総半島南端の七町村の合併により「南房総市」の一地区となったが、この町の魅力を一言で表すならば、海・山・花。そのどれもが今でも人々の生活と結びついているところにある。

JR和田浦駅から海側に十分ほど歩くと和田漁港に着く。ここは全国でも五力所しかない捕鯨基地の一つである。漁港では夏期に捕獲したクジラの解体作業を早朝に見学することができる。巨大な鯨包丁で捌かれていく姿は圧巻であ

月天心ブルーシートが風に舞う 金子 敏
 鯛の集まつてくる無言館 神作 仁子
 枯蓮邪馬台国へ眠り落つ 木之下みゆき
 流星になるまでまぐる回游す 久野 康子
 白蝶の恥らい見せて魅せられて 倉岡 けい
 初夏の飯蛸きげん良く茹だる 越野 雄治
 鳥雲にガラスの箱のカンツォーネ 小林 俊子
 夕焼けの神田西口獣道 小林 実
 福島はわが臍の緒よがり笛 佐藤 映二
 冬夕焼我に獣の血の混じり 椎名 鳳人
 蜘蛛の糸連れれば遠き日のランプ 塩野谷 仁
 死ぬ力死なぬも力寒蛸 重田 忠雄
 死にゆくは祭のなかをゆくことし 清水 伶

。「道の駅」等で鯨料理を食する事もできる。次に駅から山側に二十分ほど行くと「抱湖園」である。房総に花作りを伝えた間宮七郎平が自ら作った花木園。一山に梅、寒桜、椿などが植えられ早春から落葉の季節まで散策を楽しめる。山上の展望台からは眼下に花園の農家のお花畑、その先に太平洋を望むことができる。抱湖園から国道を挟んで海側の松林には鹿島鳴秋の「浜千鳥」の歌碑があり、潮騒の音を背に哀愁を帯びたメロデーまで聞こえてきそうだ。健脚の方は山側の花塚街道ハイキングを、また、その近くの勝浦正木氏菩提寺の正文寺を訪ねることもでき、吟行の句材は尽きない。

（沖）会員 白井淳子記

石ころの笑窪たんぽぽから負ける 杉山眞佐子
 少女ひそかに蛇を描けり母無しに 高木 一恵
 蓮の実のとんで青空は律儀 高橋 健文
 昔への入口がある師走の抽斗 高橋富久江
 白梅のほぐるる刹那初心とは 多胡たかし
 夏が来る水平線を引き直し 徳吉洋二郎
 薄野の波に紛れている白狐 長井 寛
 芒野を泳いでみてもさびしい 長濱 聰子
 喪にたつぷり非常用の月光 浪岡はるか
 獺祭忌のぞき穴から声がする 野口 京子
 梅雨深し独りに余る煮炊して 袴田 菊子
 にんげんに秋霖という信書かな 林 ゆみ
 フラッシュバックブードルは春に来る 藤田 富江
 海千里風の万里や冬かもめ 細根 栗
 引くたびに遠ざかりゆく毛糸玉 馬淵 津枝
 地に還るものの静けさ秋白し 実初 繁
 黄昏れてわたしの中を飛ぶ蛍 森 孝子
 畏怖の八月ふみこめば撫の森 森井美恵子
 黒髪の江戸仕草もて春コート 矢野 忠男
 身を守るための方便唐辛子 山崎 幸子
 てのひらに夜が来ている金魚の死 山崎 政江
 わが兜大師の骨上げを賜りぬ 山中 葛子
 （令和2年5月発行・千葉県現代俳句協会）

●句集『夕ぐさ』

三枝かずを 著

句歴六十七年となる著者が、米寿を迎えるのを機に、また同人である俳誌「玉藻」創刊九十周年記念叢書刊行の一書として上梓された。

小野正之さんを悼む

北川昭久

春立つや自分史に打つ句読点 正之
私も俳句仲間の二月の句会での最高点の句です。彼は、ノンフィクション『ある学者の「人間の条件」 隅谷三喜男伝』(三月発売)を書きあげ、その思いを句にしたものでした。彼は文筆に長けていて、会社勤務を終えた頃より、自分史に取組み、二〇一一年に『鉄の時代を生きて』(北九州市自分史文学大賞)、『鉄人伝説―小説新日鐵住金』(二〇一三年)を上梓し、今回は三作目でした。

(隅谷三喜男は、成田紛争調停、社会保障制度審議会会長、公的介護保険の導入にも尽力した。) 俳句は、流山市でも結社「悠」に属し、流山俳句協会役員として、流山文化協会の事務局長・副会長を経て、現在は会長として、今年の流山文化協会五十周年の記念行事を、取り仕切っていた矢先でした。

一か月の入院での四月二十五日急逝でした。時はコロナ禍のただ中であり、身内だけの葬儀となり、見送りの叶いませんでした。(享年七十八才)

本協会でも、長年理事を務め、大会運営、ジュニア俳句の立上げなどに尽力してこられました。任務半ばで、本人も口惜しかったことと思います。

謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。
悼句 一書成す泰山木は花掲ぐ 昭久

第62回 千葉県俳句大会作品募集 締切迫る!!

○ 特別選者・今井 聖氏の講演があります。

1. 一般の部

締切 令和2年7月18日(土) (当日消印有効)
出句料 一組 1,000円 投稿に添付 (なるべく定額小為替でお願いします)
送付先 〒276-0042 八千代市ゆりのき台3-4 エルプレシア1101 前北かおる方
千葉県俳句大会・一般の部事務局 (携帯 090-4363-3501)

2. ジュニアの部

締切 令和2年7月31日(金) (当日消印有効)
出句料 無料
送付先 〒270-0007 松戸市中金杉2-78 高橋 健文方
千葉県俳句大会・ジュニアの部事務局 (電話 047-713-6495)

※ 詳細は会報「真木」193号をご覧ください。

平成二十三年発行の夫婦句集『泉波む』以後の、玉藻誌掲載の作品三〇〇句を収載。

巻末に、星野椿・星野高士師の句評『玉藻』「雑詠」句評より』を掲載。静謐で詩情溢れる充実集。富津市生れ、同市在住。当協会副会長、日本伝統俳句協会会員。句集『金屏風』『野火』他。

初蟬を聞けばにはかに夕ごろ
夕影をまとひてリラの花匂ふ
風音に遅れ騒立つ椿かな
一舟の沖は時雨れてあゝらしく
水に寄り水を離れて春惜む

(令和2年5月発行・玉藻社)

● 句集『こなひだ』 高橋道子 著

「鳴」代表の第一句集。昭和五十七年伊藤白潮に師事。同年から令和元年までの作品三二四句を収載。表題は「半世紀前はこなひだ秋扇」による。井上信子前代表が序文を寄せ、著者について、「一見柔軟な、構えのない句を投ずる人だが、無駄なく、迷わず、その着地点の明確なことを折々に感じ、注目していた。―中略―これからも遠くから見守りたい」と温かく結ぶ。千葉市生れ、同市在住。鳴賞受賞。俳人協会幹事。

今朝秋の師のなき句帖ひらきけり
春水に映れば木々の寄り合へる
桜桃忌行李の蓋の深きこと
からころと来て初冬の音となる
木の実落つ思ひあたるといふやうに

(令和2年5月発行・ふらんす堂)

第6回千葉県俳句大賞

- 【応募条件】 千葉県内に在住し、令和元年12月1日～令和2年11月30日までに刊行した句集より審査します。当協会に加盟されているか否かは問いません。現在当協会の役員をされている方は応募できません。
- 【応募方法】 自薦、他薦は問いません。千葉県俳句作家協会担当者まで句集と同句集からの自選20句（自薦・他薦にかかわらず）をお送りください。20句はA4用紙1枚（冒頭に句集名・作者名明記）に記入してください。
- 【応募締切】 令和2年11月30日 必着
- 【頭 彰】 大賞 表彰盾、賞金5万円
準賞 表彰盾、賞金3万円 ・奨励賞 表彰盾、賞金1万円
- 【応募先】 〒271-0092 千葉県松戸市松戸 2274-5 佐藤 映二方
千葉県俳句作家協会頭彰部「千葉県俳句大賞」係宛
※ 封筒の表に「千葉県俳句大賞応募」と朱書きしてください。
- 【選考委員】 能村研三 増成栗人 三枝かずを 塩野谷仁 秋尾 敏 村上喜代子
- 【表 彰】 令和3年2月11日（祝日）新春交流俳句会の席上にて表彰します。

第35回協会賞の作品募集

- 募集句数 20句 新作未発表の作品で「題名」を付す
- 審査料 3,000円 応募作品に郵便小為替同封のこと
- 締切 令和2年12月15日（火）必着
- 審査員 秋尾 敏 川合 憲子 三枝かずを 塩野谷 仁
田所 節子 能村 研三 増成 栗人 村上喜代子
- 賞金 3万円
- 発表 会報「真木」誌上に発表し、総会の席上で賞状・賞金又は賞を授与
月刊誌「俳句界」に入賞作品を掲載
- 投句先 〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸 285 番地 染谷 卓方
千葉県俳句作家協会事務局 宛
- 投句用紙 ◇ B4版 400字詰め原稿用紙1枚を使用。
◇ 右欄外に「題名」
◇ 末尾欄外に「郵便番号・住所・姓・電話番号・所属・併歴・年齢」を楷書で明記。
◇ 右上欄外に「新仮名遣い使用」或いは「旧仮名遣い使用」と明記。

新入会員一句

去年今年いま輝けるいのちかな
知らぬ天めざして伸びる室の独活
エプロンに赤飯の染み卒業期
花種を蒔きて始まる月日かな
裸木と裸木の問母遠し
歳月を語れば茶店遠花火

北条 杜岡
叶矢龍一郎
布施 和子
寛 隆代
尾形 和子
滝沢まり子

受贈誌より

あびこ（三四八号）
日輪や梅の蕾の未だ固く
いには（六月号）
山々の上に峰々鳥帰る
浮巢（五・六月合併号）
灘に日矢千鳥遊べる潮溜り
沖（六月号）
面箱の中はおぼろの大癒見
音信（六月号）
夕端居火星探査の世紀来る
かずさホトトギス（六一一号）
水辺まで近道が出来夏来る
響焰（六月号）
たれかれを想い暮春のスロージャズ
草の実（六月号）
遠目にも風見ゆるかな藤の花
原人（七月号）
灯台は風の音して花は葉に
鴻（六月号）
亀鳴くを信じるほどの亀の数

染谷 卓
村上喜代子
大木さつき
能村 研三
白鳥紅星子
三枝かずを
米田 規子
逸見 真三
昼間たつお
増成 栗人

好日(七月号)

波音は空を汚さず啄木忌

高橋 健文

祭演(六十号)

森すべて声帯になる真夏かな

森須 蘭

雑草(六月号)

登校時花の浮力で駆け出しぬ

実粉 繁

鴨(六月号)

海割りしモーゼの杖を欲る三月

高橋 道子

軸(六月号)

出口とはおのれ自身か夏の川

秋尾 敏

新暦(三九八号)

子規愛す羽二重餅や年流る

中路 素童

獺祭(六月号)

閉ち籠もる暮し遠くをほととぎす

本田 攝子

夏日(三六一号)

春夕焼誰かが森のなかにゐる

望月 百代

野火(六月号)

老鷲や坊主あたまを撫でをれば

菅野 孝夫

初蝶(七月号)

野の風を遊びあひてに金鳳花

中山 和子

万象(六月号)

初つばめ犬吠埼を丸くとぶ

内海 良太

百鳥(六月号)

混濁の世に煌めける春の星

大串 章

遊牧(一二七号)

胸底の空地へすみれ摘みにゆく

塩野谷 仁

ろんど(六月号)

たんぼの絮に自肅を要請中

すずき巴里

基金御礼 (令和二年六月三十日現在)

秋元 紀子

鈴木真沙枝

藤岡 貞夫

青木 千代

増成 栗人

中村 世都

(以上 十八口、三六〇〇円)

令和2年度

佐原市内秋季吟行会について

吟行会を令和三年同時期に延期します。

(六月の役員会で決定しました。)

令和三年九月十六日(木) 佐原市内吟行

句会場・香取市佐原中央公民館

(吟行会担当理事・北川昭久)

千葉県俳句作家協会運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口 二千元

◇送付先 千葉県俳句作家協会基金口

郵便振替 〇〇一四〇一〇一七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせていただきます。

年会費納入のお願い

本号に「個人別年会費納入状況」を同封しましたのでご確認ください。

年会費は三、〇〇〇円です。協会の円滑な

運営のため、お早めの納入をお願い致します。

年会費送付先 千葉県俳句作家協会

郵便振替口座 〇〇一五〇一六一三五三三四四

事務局日誌

◆第二回理事会

(文書理事会により全理事に次第及び資料郵送)

日時 令和2年6月20日(土)

事項 1 第62回千葉県俳句大会について

2 令和2年度佐原市内秋季吟行会について

3 第6回千葉県俳句大賞について

4 第35回千葉県俳句作家協会賞について

5 令和2年新春交流俳句会・懇親会報告

6 合同句集第10集の参加者状況等について

7 会報「真木」一九四号について

8 その他、事務局報告

会員異動

新会員

北条 杜岡(勝浦市) 叶矢龍一郎(君津市)

布施 和子(千葉市) 筧 隆代(松戸市)

尾形 和子(富里市) 滝沢まり子(香取市)

謹 訃

高瀬 竟二 小野 正之

編集後記

当協会創立以来、初めて行われた「文音俳句会」いかがでしたでしょうか。千葉県俳句大会では会場で俳句会ができますようお祈りするばかりです。皆様、どうぞご自愛くださいませ。

本号に当協会運営基金の払込取扱票、個人別年会費納入状況及び払込取扱票、県俳句大賞・協会賞の作品募集を同封いたしましたので、ご確認の上、ご協力をお願い申し上げます。(紀)

俳誌 **あびこ** 主宰 染谷 卓

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五

TEL 〇四一七二八二一四四四一

郵振替 〇〇一〇〇一四一八九〇七四

あびこ俳句同好会

一度きりの今を楽しむ

いには

主宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代 1年 12,000円(月刊)
半年 6,000円 見本誌 500円

— いには俳句会 —

〒276-0036
千葉県八千代市高津 390-211
電話 047-458-1919
Fax 047-458-1895
振替 00280-9-131469
HP検索: いには俳句会

現代俳句同人誌

遊牧 代表 塩野谷 仁

同人費 一年 二〇〇〇〇円
誌友費 一年 六〇〇〇〇円

〒273-0033 船橋市本郷町五〇七二二二二〇七

電話 〇四七三三六一〇八一
FAX 〇四七三二五七七三八

遊牧俳句会

歩いて俳句

歩 主宰 飯田 晴

創刊 鳥居三朗
師系 今井杏太郎

〒276-0023 八千代市勝田台一七七一

電話 & FAX 〇四七・四八七・七二二七

雲発行所

心を満たす俳句

鴻 koh 「鴻」俳句会

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二四一六谷口方
電話 〇四七三三六三四五〇八
FAX 〇四七三三六六一五一〇

◆誌代/年間 二一,〇〇〇円

主宰 増成栗人
師系 角川源義 吉田鴻司



人間の総量を

鳴 代表 高橋道子

創刊 田中午次郎
再刊 伊藤白潮

誌代 一ヶ月 一,〇〇〇円(送料共)
一年 一二,〇〇〇円

〒277-0827 柏市松葉町四一七二二二二〇五

荒木甫方 鳴発行所
電話 〇四七二二三三二七六三二
振替 〇〇一八〇四一六一五七二一

<http://shigi-haikukai.com/>

月刊 **夏目** 主宰 望月百代

のびやかに自分史としての俳句を作る

誌代(送料共) 半年 六,〇〇〇円
一年 一二,〇〇〇円

〒270-0034 松戸市新松戸七一三三

夏目発行所
FAX 047-345-6351
振替 〇〇一三〇一八一一一〇九六

月刊俳誌 **沖** 主宰 能村 研三

俳句ルネッサンス

主 宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円
半年/7,800円

見本誌 1冊 800円

沖発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552

創刊 50周年

軸 軸俳句会 主宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎 95-4

電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110

84円切手3枚で見本誌贈呈